

様式3 令和6年度新座市学校評価システム学校運営協議会による評価シート

目指す学校像 (重点目標)	「一人一人の確かな成長を実現するため、教育活動の効率化、質の向上を目指す」 Ⅰ 令和の日本型学校教育の実現 Ⅱ ICT機器の積極的な活用（情報活用能力の育成） Ⅲ 豊かな心と健やかな体の育成 Ⅳ 家庭・地域との連携推進
------------------	---

学校名	新座市立第五中 学校
実施日	令和7年 1月16日

<記入の仕方>

- 「自己評価」及び「学校運営協議会による評価」の欄には、S A B Cを記入してください。
○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるか特記事項がある場合のみ記載してください。

評価項目「組織運営」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、目指す学校像を実現するため、業務の効率化を進め、分掌組織全体で学校運営に取り組んでいる。	A	今年度の指針が校長より示され、現段階は各分掌が動き始めている段階であると考え。分掌や担当ごとに見れば、すでに9割達成しているといえる部分もあると感じるが、現在進行形で試行錯誤している部分もある。年度が替わって学年配置や人事異動があったときにきちんとこれまでの成果や考えを伝えられるよう、各部署で引継ぎ事項をまとめる。 業務の効率化は進んでいるが、情報の共有や全体の意思統一を確実に図るべく、分掌の長を中心として職場への発信を今後も徹底する。	A	働き方改革、時間外勤務の削減、業務の効率化のため全教職員で組織的に改革を進めようとしている。教職員意識のばらつきも低下し、さらに改革が進む方向性が見える。 ペーパーレス化もさらに進んでいる。しかしながら地域への情報提供の機会が減少し、学校行事の期日等の情報が入ってこないことがある。地域への情報発信について検討していただきたい。

評価項目「学力向上」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現するために、ICTなどを積極的に活用し取り組んでいる。	A	各授業等でICTを積極的に活用していることが、各授業でのICTツール使用回数増加にも繋がっている。一方で、ICTは目標達成の手段であって目的ではないため、あえて使わないということも選択しながら生徒の学力向上を図るという視点があることも共有していく。	S	これまでのICTを活用した学習に加え、さらに地域の塾とタイアップしたアフターチャレンジ教室年間4回の実施、個別の学習支援対策、自律学習促進に向けてのアスサポルームの開室、タイピング技能向上を目指した文章入力スピード認定試験の実施と、積極的な取組を多く実施したことが大いに評価できる。

評価項目「豊かな心の育成」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、生徒に豊かな心を育むため、人格を尊重し、個性を伸ばしながら取り組んでいる。	A	家庭環境や人間関係など様々な課題を抱える生徒がいるが、教員がアンテナを高く目を行き届かせていることや生徒から速やかに情報が寄せられることから、問題行動に対して早期発見・早期対応ができている。今後も、威圧的な指導でなく、カウンセリング的な手法を用いながら、個に応じた丁寧な粘り強い指導・支援を行っていく。	A	学校や家庭でのネット環境、ICT教育が拡大し、SNS等の見えない所でのトラブルが増えている。ネットリテラシー等の指導をくり返し実施しているので継続して取り組んでいかなければならない。あいさつがすべてではないが、豊かな心はいろいろな場面で育まれるため、自然にあいさつが生まれる環境になるとよい。アスサポルームの開室効果も大きく、個性の伸長のため大変素晴らしい取組である。

評価項目「健康・体力の向上・安全」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、生徒の健康の保持増進のため、授業や部活動などで指導するとともに健康教育や食育に取り組んでいる。	A	専門委員会によって昼休みに校庭や体育館を開放しているのは、生徒の自主的な活動の面からとても効果的である。部活動は全員加入ではないが、自主的・主体的な活動の意義を踏まえた運営が今後も求められる。一方で、部活動に参加していない生徒の運動量低下が心配である。 給食では、衛生的な環境づくり、時間の順守やマナー等の食育の指導について、生徒と教職員とで共通理解をしながら指導を進めているが、喫食時間の確保が難しい学級があることが課題である。一方で、栄養教諭による巡回や毎日の一口メモにより、生徒の食に対する関心が高まっている。	A	部活動の任意加入等、学校生活の限られた時間の中で、昼休みの校庭や体育館での活動を生かしていくことは効果的と思われる。運動が不得意な生徒や苦手な生徒に対しての意識改革が必要と思われる。強制ではなく運動が楽しく有効であることを知らせる必要がある。 給食残菜が多いのが気になるが、学校だけで解決は難しいと思うので、家庭と一緒に食育について考える場がさらに必要である。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

質 問 項 目	自己評価	自己評価についての説明	学校運営協議会による評価	学校運営協議会による評価についての説明
学校は、通信やHP、保護者会などで情報提供に努め、目指す学校像の実現のため、学校運営協議会、後援会、PTA、各家庭・地域と連携し取り組んでいる。	A	昨年度に続き、学校に関心を向けてもらえる具体策として、学校HPの刷新、内容の充実を図り、情報提供に努めている。また、今年度は学区内の学習塾に協力を呼びかけ「アターチャレンジスクール」と銘打ち、希望する生徒に学習指導を行った。 保護者・地域から多大な連携や協力をいただいている中で、それを支える学校側の行動・しくみが不十分な点があることが課題である。	A	人間関係が希薄になっている中、五中は地域の学校というイメージが強い。また、五中が大好きであるという学校関係者（卒業生、地域の方々、元PTA、保護者）が多いのは、素晴らしいことである。また、地域の清掃活動等も活発に行われていることも評価できる。一方で地域への情報発信が少ないという意見もあり、情報発信の方法を検討していく必要がある。また、学校公開日等を活用しさらに開かれた学校づくりを行っていくことも必要である。